

企業行動研究部会議事録（第 285 回）

日 時： 令和 2 年 6 月 8 日(月) 18:00~20:00

場 所： 各位のオフィス or 自宅

出席者： 勝田和行 河口洋徳 北川則道 銀山一浩 櫻井功男 出口純輔 永井郁敏 野崎篤彦
比賀江克之 菱山隆二 平塚 直 古山英二 堀場政行 水尾順一 峰内謙一 向井恒泰
(順不同) 16 名

1. 連絡事項

勝田部会長より指示があり、総務担当河口より来る 6 月 20 日開催予定の 2020 年度日本経営倫理学会総会の開催概要の説明と、出席または委任状提出の依頼が行われた。

2. テーマ発表及び意見交換

コロナ禍と資本主義の形 —人間と社会のための会社へ— 峰内部会員

2-1. 疫病が歴史に与えた影響

「パンデミックは既に起きていたことの進行を加速させる。」

2-2. 疫病が歴史に与えた影響

では、既に起きていたこととは何か？

2-3. 資本主義の形の変化が加速する？。

既に、追い詰められていた「株主資本主義」

2-4. 資本主義の形について米国と欧州で出された二つの声明

1. 米国「ビジネス・ラウンドテーブル」による新声明

2-5. 資本主義の形について米国と欧州で出された二つの声明

2. 「ダボス・マニフェスト 2020」

2-6. 三つの動き（上の二つに加えて SDG s）に共通するもの

「人間と社会のための会社に」へ

2-7. 日本経済の長期低迷

「失われた 20 年などと云われて」

2-8. 「人間と社会のための会社に」

「日本的経営」凋落のプロセス

2-9. 日本は世界の最悪レベル？（日本の社員に対する評価）

ギャラップ社（米国）国別「熱意あふれる社員の割合調査」（139ヶ国）

2-10. 「人間と社会のための会社に」

「ガバナンス」から「マネージメント」へ

2-11. 「人間と社会のための会社に」

「ステークホルダー資本主義」が機能するために、

以上

上記の発表を受け、ZOOM 会議位参加者全員から、自身を取り巻く現況報告を含め、多数の意見交換が行われた。（一部抜粋）

- ・ 50 年前は会社の運転資金はほぼ金融機関から調達していた。金融機関は政府の規制のなかで機能しており、結果として企業も大きな仕組みに縛られていた。しかし現在は、広く株式市場から、資金は調達されるように変化した。会社は、こうした経済構造の変化の中で、売買の対象となり、いわば人（法人という人格）から、物のように扱われるようになっていった。

- ・結果として現在は経済ジャーナリズムが厳しく会社を見張るようになって来たのではないかと考えるが、如何に。
- ・リーマンショックの時のようにまた株主資本主義の方向に揺り戻しが来るのではないかと。但し長期的には **StakeHolder** 資本主義の考え方に变化してくると思う。
- ・自分は岩井克人先生の考え方に同調しているのだが、今後コロナが終息すると、ミルトン・フリードマンへの回帰が起こるのではないかと人々がいるのを知ってはいるが、既にそうした方向への動きは起こらないのではないかと考えている。これがコロナのもたらした+の側面と言えるように思う。
- ・希望的観測として、そうあってほしいと思いつつながら、峰内氏も危惧されているよう、今後経営視点で、厳しい側面が増大し、そうした中でなりふり構わぬ利益志向への急展開がやはりあるのではないかと懸念を深める。
- ・根拠がある訳ではないが、コロナを機に世界が変わると言われているが、3年もたつと元に戻るのではないかと。
- ・新自由主義との関係はどのように変化するのだろうか。
- ・新自由主義は、いわばリバタリアニズムという事かと思うが、新自由主義はこれから再展開する可能性は少ないと思う。これからの世界では、新自由主義は **SDG s** を見ても追い詰められるのではないかと。
- ・株主第一主義は沈むのではないかと。日本の経済ジャーナリズムには反省があり、きちんと指導性を発揮できるのか。
- ・経済ジャーナリズムに期待できるし、期待すべきと考えている。
- ・例えば現在の安倍内閣に対するジャーナリズムの視点を見てもあまり期待すべきとは思えないように思う。
- ・資本主義に株主資本主義とか **SH** 資本主義とかいうような分類が、本当に意味があるとは考えにくい気がする。例えば **SDG s** 資本主義とか **CSR** 資本主義とか **ROE** 資本主義とかも云えそうだがそもそもこのような分類に意味があるのか？という事がかなり気にかかっている。
- ・皆、すぎるべき価値観の軸を見失っているために、様々な資本主義などと言う言葉が出てくるのではないかと。
- ・社会共通資本という言葉・概念があると思うが、これからはしばらくの間には相当のリセッション局面に入ると考えられる。そうなる現実には偽善、きれいごとと言う考えが横行するのではないかと、つまりこうした時に我々は如何にして経営倫理、企業倫理なるものを語るべきかという事が重要になるのではないかと。
- ・現在の問題はピケティ氏の言を待つまでもなく、議論が発散するのではないかと。
- ・ダボスでの発言では、3つの資本主義（株主、**SH**、国家）というくくりで分類されており、中心的な **SH** は誰かという点からの分類であり、それ自体は一定の考え方のベースだと思う。
- ・**SH** 資本主義を主張したエドワードフリーマン対株主資本主義のミルトンフリードマン企業の目的についての原点回帰がテーマとなっている。日本人は熱しやすく、冷めやすい傾向がある。しかし今般課題となっている **SH** 資本主義の流れはきちんと根付くと考えている。
- ・資本主義は、歯止めをかけながらとの制約はあるが、人間が働きやすい経済活動の場としては資

本主義型がやはり現実的かつ実効的なのではないか。

- ・自社株買いの倫理性の議論があったが、どこに正当性があるのか、教えてほしい。
- ・自社株買いに本来の正当性はない。矛盾と考える。
- ・メディアでの追及が甘いと考える。
- ・ROE 型資本主義経営を目指すので SH 型資本主義の理想からは遠いのか。
- ・経営にとっては株主に褒められると自身の評価が上がる。
- ・コロナと資本主義というタイトルそのものについて、皆様のお考えを聞かせてほしい。
- ・コロナ終息後 2-3 年で元に戻るのではないかとのお話があったが、若い人はこのコロナを機に大きく世界が変わると評価する一方年配者は 2-3 年で戻ると考えている。仕事でもスポーツでも既に大きな変化を始めている。そしてこれが大きなビジネスチャンスになると考えている。
- ・3 月 26 日から山下俊彦氏の本で「神様と僕」という本が出ている。この中に松下 6 代の社長の経営と企業倫理の本質が深く描かれ、心がさわやかになった。
- ・経営倫理視点、コンプライアンスの観点で、最も大きな課題は、政界・官界のコンプライアンスの前提を早急に見直すべき時期に来ていると考える。金、ポスト、立場ではなく、もっと大きな視点でコンプライアンスを考えてほしい。
- ・感想ではあるが、人間と社会の為の会社という表現があったが非常に印象に残った。医療に関して仕事を進めてきたが、ラグビーの合言葉 1 チームの中で原点回帰の活動が行われ始めており印象を深めた。
- ・日本の感染症対策は国際的には如何か？
- ・使命感でやっているところは評価できると思う。
- ・数値から見ると国際的に高く評価されるべきと思う。
- ・予想がつかないわけだが、多くの人がマスクをつけている以外は大きな変化を感じないようにも思えるが、いろいろな学説等も転倒することもあると思う。自身の会社が生き残れなくなるような変化が起こらないのか等のことも気になる。
- ・それぞれの視点考えがあることを理解するが、今回のコロナが与えてくれたことをチャンスと考え、今までのレビューを行い、ワクチンにせよテクノロジー一般も医薬も、これまでの当たり前を、これからどう見直して行くかを考えるべきと思う。
- ・次のあるべき姿、ヨーロッパもグリーンリカバリーを考え始め、米国のサンデルも現在の問題点は不公平にあると言い始めており、日本だけは政治の停滞が大変気になる。
- ・米国の話が出たが、北米を見ると、カナダと米国の差が大きくなっていることが危惧される。
- ・皆様のご意見で大いに学習した。BERC では教室と ZOOM 併用で行い始めた。オンラインとリアルの平行で実施中。今後の流れは大きなパラダイムシフトを起こし始めている。例えば大学の学生支援でも、幹部級の OB 達は印刷物での案内で寄付を集めようとし、一方若手はクラウドで既に一定の金額を集めているというような変化が出ている。こうしたこともアフターコロナの世界の変化を伝えているのかもしれない。

3. その他

勝田部会長より、次回 7 月についても、WEB 会議 (ZOOM ミーティング) として実施する可能性が高いかなと考えている。

7月のテーマも未定であるので、是非テーマだしをお願いしたい。

以上

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：秋山和久 安藤 颯 石川英男 井上真由美 岩倉秀雄 上原利夫 遠藤梨栄 大泉英隆 大沼久美
岡本伊万里 岡田佳男 小澤彩子 小畑哲哉 片方恵子 勝田和行 加藤隆一 河口洋徳 川村正彦 北川則道
木下博生 銀山一浩 熊本一夫 熊本えり 栗栖徳雄 桑山三恵子 剣持 浩 小池裕子 小池恒平 小松久夫員
小松昌子 近藤成径 西藤輝 櫻井功男 (順不同) 佐久間健 佐藤陽一 柴柳英二 潜道文子 高橋太一
武谷 香 田村尚子 出口純輔 徳山 誠 永井郁敏 那須一貴 西村秀美 根本三千夫 野崎篤彦 野瀬哲郎
比賀江克之 樋口晴彦 肥後文雄 菱山隆二 平塚 直 古谷由紀子 古山英二 堀場政行 増澤洋一
増淵隆史 松尾 實 松本邦明 丸山千賀子 宮澤直幸 峰内謙一 向井恒泰 森田 充 森 敦子 森下和代
山中 裕 山本明男

[学会本部]：潜道会長 梅津前会長 水尾前副会長 高橋元会長 内田事務長